

12:35 イエスは宮で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、キリストをダビデの子だと言うのですか。」

12:36 ダビデ自身が、聖霊によって、こう言っています。『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていないさうい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』」

12:37 ダビデ自身がキリストを主と呼んでいゝるのに、どうしてキリストがダビデの子なのでしよう。」大勢の群衆が、イエスの言われることを喜んで聞いていた。

12:38 イエスはその教えの中でこう言われた。「律法学者たちに気をつけなさい。彼らが願うのは、長い衣を着て歩き回ること、広場であいさつされること、
12:39 会堂で上席に、宴会で上座に座ることです。」

12:40 また、やもめたちの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けます。」

12:41 それから、イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちがたくさん投げ入れていた。

12:42 そこに一人の貧しいやもめが来て、レプタ銅貨二枚を投げ入れた。それは一コドラントに当たる。

12:43 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。12:44 皆はあり余る中から投げ入れたのに、

この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」

イエスは教室で講義をするような一方的な授業をしませんでした。このように質問を投げかけ常に語り合いながら、ときには話題を取り上げ、出来事を利用して、相手が興味を持ったことからは発展させて神の真理を語ったのです。私たちがイエス様との生きた交わりをすすむなら、生活のあらゆることを通して教えていただけませんか、心を開いていましょう。眞理に生きているはずの律法学者のように、神の人間的な良い扱いを求めるといふのが、この世の世の証拠です。本当に信仰に生きないことと、おかしなこととであり、本当に信仰に生きないことと、クリスチャンも神のみこころに生きていることを喜びとばしや儲け話に心が引かれる人があります。イエス様がこの貧しい女性を誉めたことを思いながら、神様の価値観で生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

